

図書館部報

岡崎市現職研修委員会
学校図書館部
令和2年1月17日
No. 3

本 友

岡崎市現職研修委員会学校図書館部
部長 矢作東小学校 清松 治子

昨年12月のある日。2時間目の後の休み時間に、校長室の扉が小さくノックされました。「どうぞ」と声をかけたら、ゆっくり扉が開きました。顔をのぞかせたのは、5年生の女の子4人でした。4人は、譲り合うようにして校長室に入ってきました。私は、彼女たちがどうして校長室を訪れたのか、担任の先生から聞いて知っていましたが、しばらく黙って待つことにしました。すると、4人のうちの一人が、緊張した様子で「校長先生と本のお話をしに来ました」と言いました。

この10日程前、12月1日発行の「岡崎の教育」に、私の書いた読書箋が掲載されました。そこで4冊の本を紹介したのですが、「本のお話をしに来ました」と言った子は、その4冊の内、2冊をおばあさんに買っていただいて読んだと言うのです。実は、彼女のお母さんは学校の先生で、手元に届いた「岡崎の教育」に私の名前を見つけ、「校長先生が載ってるよ」と、彼女に見せてくださったそうです。彼女は、紹介されている本の中に自分も読んだ本を見つけ、私と話したいと思ってくれたようです。彼女が日記に「校長先生と本の話をしたい」と書いていたことを担任の先生がこっそり教えてくれていました。

どんな本をよく読むかとか、好きな作家とか、この本が面白かったとか、緊張していた彼女たちも話をするうちにだんだんリラックスしてきて、4人の女の子とおばあさん一人のガールズ(?)トークは、昼休みも行われたのでした。

読書の楽しみの一つに、一人静かに集中する時間をもてることがあります。その一方で、本と関わる時間を誰かと共有することも素敵なことで、読書の楽しみ方の一つだと思います。私は読書好きですが、かつて月に数回は読書箋を書く立場にあったとき、正直、半ば義務のように本を読んでいました。それでも読書が嫌にならなかったのは、本を紹介し合ったり感想を話し合ったりする「本友」の存在があったからだと思っています。ちなみに、ここでいう「本友」は、「本でつながった友達」という意味です。週に一度しか勤務しない学校で、「この本よかったよ」「前に言ってたあの本貸してね」という話をしてくださった方。子供の声が聞こえない職場で、「先生が紹介してくれる本は面白いね。また教えて」と言ってくださった方。そういう「本友」(先輩もいらっしゃるので失礼かもしれませんが、感謝と敬意を込めて「本友」とお呼びします。)との時間が、私の世界を広げ、人生を豊かにしてくれたことは、間違いありません。

子供たちにも、一人静かに読書する時間と、本を通して誰かとつながる時間の両方を楽しんでほしいものです。ありがたいことに、私たちは、子供たちにそういう時間を提供することができます。

私は今、かわいらしい「本友」ができたことに、わくわくしています。

第69次教育研究集会愛知大会に参加して

県教研に参加させていただき、心豊かな子供の育成に読書活動が必要不可欠であると、勉強させていただきました。「学習情報」では、単に情報を取得するためだけに本という媒体を活用するのではなく、そこから自らの意思で取捨選択し、自分の表現に役立てるような段階を踏んだ実践が目を引きました。また、純粹に読書を楽しむことで、SNSの普及が著しい今日において、人と人とを結びつけることにつながるとご助言をいただき、「読書活動」の重要性を改めて実感する機会となりました。これら二つをより充実させることで、主体的・対話的な学びを実現することができると学び、本校での読書実践に生かしていきたいと考えることができました。

＜根石小学校 福永 えりな＞

県教研に参加をさせていただきました。生活環境の変化やメディアの発達・普及を背景とする「読書離れ」や「活字離れ」が問題視され、またICT機器の発達によって様々な情報を収集できるようになった今日の中で、児童・生徒が主体的に本に親しもうとする姿を目指す実践や、自ら情報を取捨選択し活用する力を育もうとする実践が目を引きました。具体的には、学校図書館司書とのブックトークや友達とのビブリオバトルなどの関わりを通して、本のおもしろさを体感させたり、調べ学習の中で必然性をもたせて本を活用させる場面を設定したりする中で、子供たちに読書の幅を広げさせたり、学習内容をより発展・深化させたりすることができると感じました。さらには、継続的な指導が大切だという助言をいただいたので、今後に生かしていきたいです。

＜翔南中学校 石川 俊之＞

〈図書館活動紹介〉



秋の読書週間に合わせ、図書委員の生徒たちが「河中読書週間」を企画しました。「図書室の本を読んでほしい」という願いから、朝の読書の時間を使い、図書室の本を読むようにしました。感想や紹介文を書き、読んだ本の近くに掲示したり、読んだページ数を競って、各学年上位の生徒を表彰したりしました。

冬休み前、「先生、冬休みに本を読みたいので、2冊借りても良いですか」という質問がありました。図書委員の企画をきっかけに、図書室が少し身近になったように感じます。

＜河合中学校 鈴木 恵里子＞



【今後の主な予定】

1月上旬～2月上旬 第3回SLBA図書注文

1月上旬 「読書感想文・読書感想画優秀作品集」チラシ配布・注文

1月24日 注文締め切り

1月31日 市読書感想文・読書感想画コンクール表彰式（第3回主任会）

2月下旬 「読書感想文・読書感想画優秀作品集」発行

